ディボーションノート　７

|  |
| --- |
| 　２月１６日(月曜)　サムエル記下　第８章　アフタースクール(月・水・金)　主なる神はダビデの行く先々で勝利をお与えくださり、王国は周辺国との戦いに終止符を打ちます。地図を思い浮かべて下さい。イスラエルの周辺には、北東側には、北から順にアラム、アンモン、モアブ、エドムの、諸民族がいました。南西には地中海の海辺にペリシテがしました。イスラエルの国は東西の民族に南北から挟まれて侵略を受け続け、脅かされてきました。海に囲まれている日本では、想像できない歴史です。ダビデは諸民族との戦いに勝利し、国の基礎を固めます。共に戦ってきた重臣たちの紹介が最後にされています。 |
| ２月１７日(火曜)　サムエル記下　第９章　キッズブラウン英会話(火・金)　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　マルコ伝の学び会　ダビデは前の王サウルの子で、親友のヨナタンのことを思い、その友情に報いようとして、ヨナタンの子メピボセテに恩恵を与えます。彼は祖父サウルが戦死し、父ヨナタンも失い、自分は体の不自由さの中にあるとき、父の友人ダビデ王の助けを受けてこう言います。「あなたは、しもべを何とおぼしめして、死んだ犬のようなわたしを顧られるのですか。」と。そしてダビデを拝し、へりくだります。しかし問題は、従者のヂバにありました。ダビデはメピボセテをよろしく頼むと、ヂバに委ねるのですが、サムエル下16章ではヂバは、裏切りの行為をします。 |
| ２月１８日(水曜)　サムエル記下　第１０章　み言葉サロン　イスラエルの国の東側、死海の北東の国がアンモンです。前の王ナハシにダビデは恵みを受けたので、ナハシの子であるハヌンが王となったので、哀悼の使者を送ります。しかしアンモンの高官たちは、この使者は偵察のためだ、と疑い、使者のひげを半分そり落としたりして侮辱して返します。アンモンは北のアラムから2万の傭兵(ようへい：やとった兵)を得ますが、戦いが始まると、ヨアブが率いた精兵のまえに、雇われて兵たちが逃げだします。アラムはこの後もイスラエルと戦い、大きな損害を受け、二度とアンモンを支援しなくなります。 |
| ２月１９日(木曜)　サムエル記下　第１１章　午前・午後の祈り会　イスラエルの全軍はアンモンの首都のラバを包囲し、戦いを優勢に進めていました。しかし、先頭にたつべきはずのダビデ王は戦いの前線に行かず、エルサレムの王宮にいました。ダビデの生涯での最大の罪が、このときに犯されます。聖書は、「ある日の夕暮れ、ダビデは床から起き出て、王の家の屋上を歩いていたが・・・」と書き出します。心のスキを狙われたダビデ。サムエル記は王の罪を隠すことなく記します。本当に驚くべきことです。あのダビデ王が、こんなにも罪に罪を重ねるのか。11章は読むだけで迫ってきます。同じ歴史を記録した歴代誌は、この罪の記録を載せていません。 |
| ２月２０日(金曜)　サムエル記下　第１２章　ホザナ会　詩篇を読む会神は預言者のナタンを遣わします。初めはたとえ話でダビデに語ります。まさか自分の罪を描き出されていると気がつかないダビデ。自分の罪が見えないダビデには、そんな男はと、罪は全く他人事なのです。その時、ナタンが「あなたがその人です。(その男はあなただ)」と指摘します。ダビデは神の前に引き出されたのです。神の裁きをかたる預言者ナタン。ダビデはじっと聞いていました。人々の居並ぶ王宮ですが、王としての体面を捨てて、罪を認め告白します。「わたしは主に罪を犯しました。」「主もまたあなたの罪を取り除かれる。」ダビデの告白とナタンの赦しの宣言。福音は本当にダイナミックです。この場面に、いつも感動します。詩篇５１篇はこのときの喜びを歌っています。　　　　　　　　　　 |
| ２月２１日(土曜)　サムエル記下第１３章　早天祈祷会　小鹿野宅家庭集会　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ＳＹＦバイブルスタディー　新共同訳は「その後、こういうことがあった。」と語りだします。ダビデの罪の影響が、家族の間に陰を落としはじめます。アムノンが義理の妹のタマルに罪を犯します。それをダビデは聞いて怒りますが、きちんとした指導ができませんでした。罪の影響は三四代に及ぶのです。タマルの兄のアブサロムは、復讐の時を待ちます。そして満二年後にアムノンを撃ち殺します。妹の復讐を行い、そしてアブサロムはダビデのもとに帰らず、逃亡します。ダビデはアブサロムをも正しく導けませんでした。やがて息子のアブサロムが父親のダビデを追い出し、ダビデは再び逃亡生活を送ることになります。 |